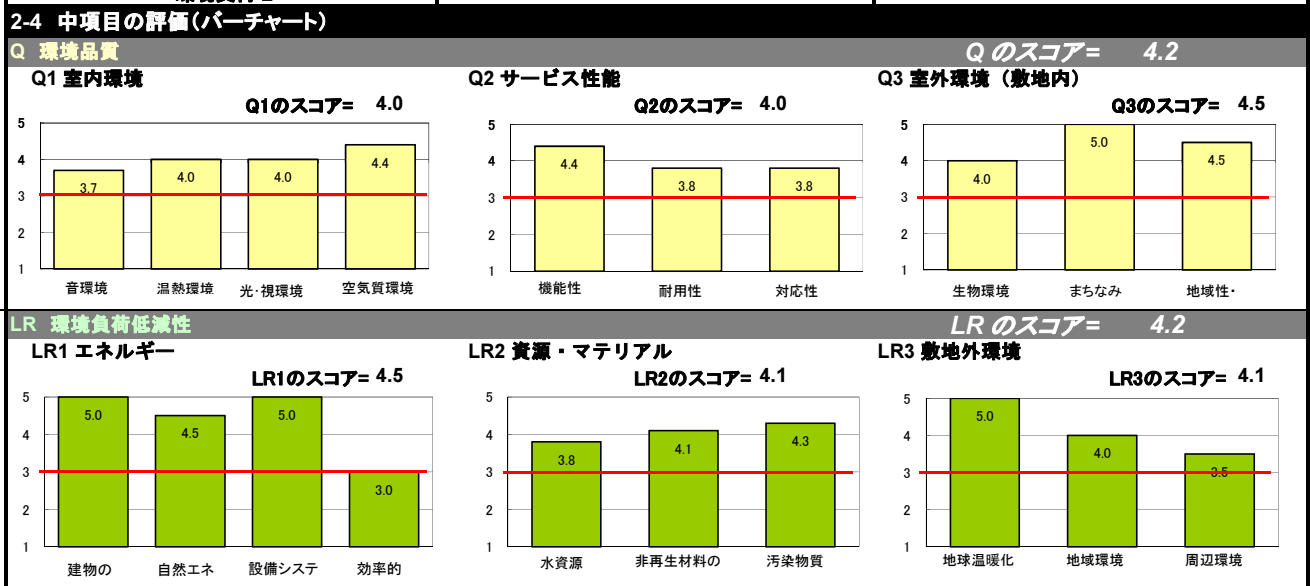
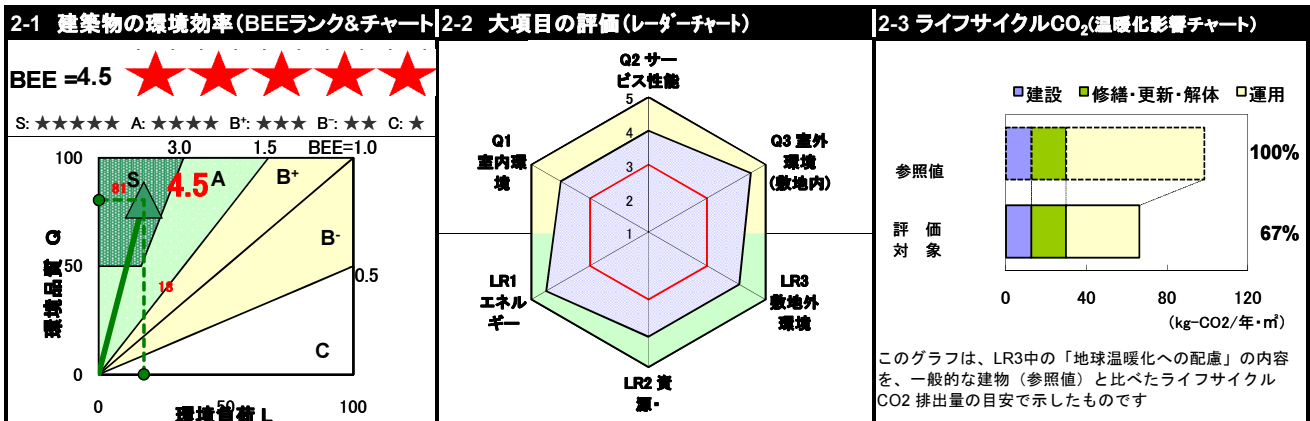


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	京都市南区東九条小中学校	階数	地上6F	
建設地	京都府京都市	構造	RC造	
用途地域	商業地域、第二種住居地域、防火地域	平均居住人員	1,585 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	2,070 時間/年	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2010年10月5日	
敷地面積	13,540 m ²	作成者	菅原	
建築面積	4,980 m ²	確認日	〇〇〇	
延床面積	16,054 m ²	確認者	〇〇〇	



3 設計上の配慮事項		
総合 エコスクール実現に向けての取り組み ・京都市において環境配慮型校舎のモデルとなる学校 ・地球環境配慮した学校施設 ・環境教育の一環として、生徒・児童が実体験できる技術の積極的な採用		その他 ・敷地外周部を緑化し、周辺の公園と一体となった緑の学校をつくる計画 ・京都府地球温暖化対策条例に基づき敷地面積の15%以上の緑化に努める
Q1 室内環境 ・教室窓から風を導入、共用部「光と風の庭」で排気し、自然換気を効率化 ・体育館2下部をビット化、床下自然換気により温度環境を向上	Q2 サービス性能 ・室内空間の床や腰壁、天井等に木材を多用 ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン	Q3 室外環境 (敷地内) ・南側バルコニーテラスを屋上緑化し、下階の冷房負荷低減 ・底先端より緑のカーテンによる壁面緑化を行い建物集計と日射負荷軽減
LR1 エネルギー ・空調屋外機周辺でミストを噴霧、屋外機周辺の温度を下げ機器効率をUP ・夜間の余熱排気(ナイト・ブー)により空調動力を削減 ・空気質センサーの採用により教室の換気量を低減(換気による電量削減)	LR2 資源・マテリアル ・底先端軒樋により酒樽等を再利用した雨水タンクへの集水を行い水遣りに利用 ・超節水大便器を採用	LR3 敷地外環境 ・空調屋外機周辺でミストを噴霧を行うことにより屋上温度を下げ、かつ打ち水効果による周辺地域のヒートアイランド抑制を図る

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される